

2023年度(令和5年度)

# 事業報告書

自 2023年4月1日

至 2024年3月31日

公益社団法人日本ローイング協会

## [2023年度(令和5年度)事業報告]

2023年度は、中期事業計画（2022－2024）の2年目であり、計画した諸事業において具体的かつ確実な前進とその成果をあげた。特に、喫緊の課題である財政基盤の再建に向け、選手登録料や主催大会出漕料などの値上げの他、徹底した予実管理と経費削減を実行し黒字決算を実現した。パリ2024オリンピック・パラリンピック（以下パリ2024）に向けては男子オープン種目で出場権を獲得したほか、アジア競技大会では女子2種目で準優勝するなど強化面でも着実な成果を得た。「海の森水上競技場」のレガシー活用として「第101回全日本ローイング選手権大会」および「TOKYO2020開催記念レガッタ」を東京都や地元江東区、そして多くのボランティアとの協働体制のもとで成功裏に終えることができ、ローイングの価値を高め、ファン層を拡げることができた。

### 1.「日本の地域社会でローイング競技の普及を図る」に関する事業

ポストコロナを踏まえ、感染症対策に留意しつつ都道府県ならびに各地域の協会、そして全国ボート場所在市町村協議会と連携しローイング人口の増大を目的に種々取り組みを実施した。「パラローイング」においては体験乗艇会の継続実施、「コースタルローイング」に関しては競技水域の新規開拓と維持に努めるとともに各地域における普及事業を積極的に支援した。また2回目となる「バーチャルインドアローイング大会」を実施し、競技層の拡大を図った。

### 2.「ローイング選手の育成・強化を行い、競技力の向上を図る」に関する事業

最優先目標であるパリ2024の出場権とメダル獲得に向け強化体制の充実に努めた。パリ2024で最後となる軽量級ダブルスカルに加え、オープン種目とスイープ種目の強化にも重点を置いたが、世界ローイング選手権において男子シングルスカルが8位となりパリ2024出場権を獲得したほか、アジア競技大会では女子のエイトとフォアが中国に次ぐ銀メダルを獲得するなど将来につながる成果が得られた。また、中長期的視点に立ちジュニアからシニアまで持続可能な国際競技力向上を目標に、タレント発掘育成事業の更なる充実と、7年目を迎えるJOCエリートアカデミー事業も継続した。パラローイングにおいても強化体制を整備し、パリ2024出場に向けて万全の準備を行った。また、2028年のロサンゼルス大会から採用が決まったコースタルローイング種目（ビーチスプリント）に関しては、普及に加え強化活動に向けた対応の準備にも着手した。

### 3.「ローイングの全日本選手権大会及びこれに準ずる競漕会を開催する」に関する事業

大雨の影響で中止となった全日本マスターズレガッタを除き、5月の全日本ローイング選手権大会をはじめとする11大会を本会主催として開催した。「海の森水上競技場」での大会も回を重ね、運営ノウハウの蓄積および東京都や指定管理者との良好な協力関係も着実に進展するなか、有料制を前提とした大会において観客に提供できる価値（臨場感あるレース映像や実況解説など）に関する知見も深めることができ、次年度以降につながる収穫を得た。

### 4.「日本代表チームの役員と選手を選定し、国際競漕大会へ派遣する」に関する事業

明確な方針のもとに公平な代表選考を行い世界ローイング選手権、ワールドカップⅡ・ⅢおよびU19・U23など世代別の主要国際大会に選手団を積極的に派遣した。また、昨年より延期となっていたJOC派遣の第19回アジア競技大会、およびFISU世界大学競技夏季大会へも多くの選手を派遣した。その他、初めての試みとしてシニアB・C代表を選定し、欧州のインターナショナルレガッタに出場した。また、パラローイングも代表チームを世界ローイング選手権に派遣した。

## 5.「ローイング競技の諸規則・諸規定の制定及びコース・競技用具の審査と検定」に関する事業

競漕規則・細則について国際ローイング連盟の改定を踏まえ、必要な見直しを行った。また、コースの新規および更新認定業務を都道府県協会やコース管理自治体などと協力し実施した。

## 6.「その他の重要な事業」

中期計画の中でも最重要課題である累積赤字の解消と健全な財務状況を確立するため、中期に亘る資金配分フレームワークを設定し、資金効率の最適化に向けた方針を明確にするとともに、予算管理規程を制定し予実管理の厳正化を図った。加えて既存の収入源に関する根本的見直しと改善を行い、合せてマーケティング部会を中心に新たな協賛先も開拓し増収を果たした。

また、スポーツ庁の助成事業を活用した情報管理システムの刷新事業（新プラットフォームの構築）は計画した内容に沿って2年目を終了、2025年度本格稼働を目指し開発を継続中である。

スポーツ団体ガバナンスコードについても実情的確かな把握と改善に取り組み、適切な組織運営ならびに協会活動を行った。

## 1. 競技本部関係事業

### (1) 競漕大会開催ならびに競技者に関する事業

#### ①競漕大会開催について

・今年度は主催大会として、以下の大会を開催した。

開催期日	大会名	開催地・コース
5月18日（木）～21日（日）	第101回全日本ローイング選手権大会	東京都江東区 海の森水上競技場
6月3日（土）～4日（日）	第14回全日本マスターズレガッタ (コース水位上昇により中止)	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
6月24日（土）～25日（日）	第73回全日本社会人ローイング選手権大会	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
7月22日（土）～23日（日）	第43回全日本中学選手権競漕大会	福井県三方郡美浜町 久々子湖漕艇場
7月28日（金）～31日（月）	第71回全日本高等学校選手権競漕大会	北海道網走市 網走湖ボートコース
9月6日（水）～10日（日）	第50回全日本大学ローイング選手権大会	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
9月9日（土）～10日（日）	第63回オックスフォード盾レガッタ	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
9月21日（木）～24日（日）	2023年特別国民体育大会ローイング競技	鹿児島県鹿屋市 輝北ダム特設ローイングコース
10月13日（金）～15日（日）	第64回全日本新人ローイング選手権大会	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
10月29日（日）	TOKYO2020開催記念レガッタ2023	東京都江東区 海の森水上競技場
2024年 2月3日（土）	2024バーチャルインドアローイング大会	オンライン開催ほか 特設会場(戸田・銀座・名古屋)
3月22日（金）～24日（日）	第35回全国高等学校選抜大会 兼JOCジュニアオリンピックカップ	静岡県浜松市 天竜ボート場

※全日本ローイング選手権では軽量級4種目とパラ種目(タイムトライアル)を含めて開催した。

※TOKYO2020開催記念レガッタは普及委員会が主管した。2024バーチャルインドアローイング大会は実行委員会を立ち上げて実施した。

②インドアローイングについて

- ・昨年度再開したA大会（全国7ブロック）および24県26会場のB大会を開催した。
- ・昨年のテスト大会に続き、2024バーチャルインドアローイング大会を開催した。

③競技団体及び競技者について

- ・競技者規定に基づき、2023年度の競技団体および競技者の資格決定を行った。
- ・2023年度の競技団体、競技者登録を行うとともに、当該年度の登録状況を把握した。

(2) コース認定に関する事業

今年度は以下の更新認定と新たに申請のあったコースについて認定作業を実施した。

- ・2023年度更新認定コース

都道府県	コース名	級	レーン数	距離 (m)
北海道	茨戸漕艇場	C	3	1,000
北海道	網走湖ボートコース	C	4	1,000
宮城県	長沼ボート場	A	8	2,000
山形県	京田川ボート場	C	3	1,000
福島県	県営茨野漕艇場	B	6	1,000
新潟県	津川漕艇場	B	6	1,000
静岡県	佐鳴湖漕艇場	C	8	1,000
広島県	芦田川漕艇場	A	6	2,000
長崎県	形上湾ボートコース	B	6	1,000
佐賀県	佐賀富士しゃくなげ湖 水上競技場	B	8	1,000

(3) 競漕艇の計測に関する事業

2023年特別国民体育大会、第71回全国高等学校選手権及び第35回全国高等学校選抜大会において競漕艇の計測業務を行った。

(4) 海の森水上競技場に係わる事業

- ①レガシー活用の観点から、今年度は同会場において「第101回全日本選手権大会」および「TOKYO2020開催記念レガッタ」を開催した。
- ②同じく海の森水上競技場を拠点とした総合型地域スポーツクラブを東京都ローイング協会や日本カヌー連盟他と共同で法人設立を行い、施設等の整備および運用システムの構築を関係先と連携し確立した。（本格営業は2024年度から開始予定。）

(5) 審判に関する事業

①審判業務

- ・本会主催および主管大会に審判長をはじめ審判員を派遣し、大会審判業務をより円滑に行った。
- ・強化委員会による日本代表選考レースに審判を派遣し審判業務を行った。

## ②審判員養成事業

- ・国体やインターハイ等の地方大会において円滑な審判団編成のため、C級審判を現在の1,562名から1,700名を目標に底上げを図り、結果として1,687名まで増加した。
- ・審判員養成を目的に次の研修会と認定試験を行った。

研修会名称	開催時期	開催場所
第91回審判員研修会 (B級審判員認定試験併催)	6月	埼玉県・戸田
第92回審判員研修会 (B級審判員認定試験併催)	10月	埼玉県・戸田

## 2. 強化本部関係事業

### (1) 選手強化に関する事業

#### ①基本方針

2023年シーズンは、パリ2024でのメダル獲得を目指す上で重要なシーズンと位置付けた。東京2020後の強化戦略を具現化し、パリ2024への出場権獲得及び上位進出への足がかりを作るシーズンであると同時に、次世代のオリンピック日本代表選手を育成するシーズンでもあった。これらの方針に従い、本年は幅広い選手の育成と国際大会への積極的な派遣と各大会で決勝進出を果たすべくその仕組みおよび支援体制の確立に取り組んだ。

#### ②具体的活動計画

##### 1) 日本代表選手及び所属団体における強化メソッド実施

- ・代表チームと所属団体間における、トレーニング方法（強化メソッド）の共有化を図った。
- ・サポートコーチ制度を継続し、代表チームのコーチと所属団体のコーチの間でもトレーニング方法の共有を図った。

##### 2) 代表チームの識別

- ・日本代表チームのA代表とB・C代表の識別化を図り、A代表においては世界選手権、アジア競技大会などオリンピックへ向けた強化を、B・C代表においてはアジア選手権など次世代アスリートの育成を目的とした強化を行った。

##### 3) オープン、スウィープ種目強化事業

- ・アジア競技大会でのプレゼンスの確立やロサンゼルスオリンピック以降の日本代表選手育成のためオープン種目の更なる強化を図った。
- ・オープン種目における世界へのチャレンジ機会を増やすために、B・C代表の国際大会への派遣を積極的に実施した。

##### 4) サポートコーチ制度の拡充

- ・所属団体からのサポートコーチを積極的に受け入れ、代表チーム及び所属チームにおけるトレーニング方法の共有と継続指導を実現した。
- ・次世代指導者育成という観点でも、サポートコーチ経験者の中から次世代の日本代表チームコーチを育成していくことも視野に入れて活動した。

- 5) コンディションに対する所属チームへのフィードバック
  - ・所属団体に対しての選手のコンディションをフィードバックし、所属団体との連携を強化した。
- 6) 協会内組織連携
  - ・アスリート委員会、医科学委員会、パラローイング委員会との横断的な連携を強化し、より快適なチーム環境を構築した。
- 7) 継続強化
  - ・タレント発掘・育成事業を継続し高身長、高フィジカルな選手の発掘を目指した。
  - ・U23 選手へのサポートを拡充させるとともに、ジュニアからシニアへの一貫したアスリート育成パスウェイに沿った育成、そしてメダルポテンシャルアスリート (MPA)、およびその予備軍であるポテンシャルアスリート (PA) 制度の運用を本格化させた。

### ③強化合宿及び大会派遣について

#### 【シニア】

事業名	実施場所	期 間
4月合宿	埼玉県・戸田	4月1日(土)～4月19日(水)
5月合宿	東京都・海の森	5月21日(日)～5月24日(水)
仏・事前合宿①	フランス	5月29日(月)～6月14日(水)
ワールドカップⅡ	イタリア・パレーゼ	6月14日(水)～6月18日(日)
仏・事前合宿②	フランス	6月19日(月)～7月5日(水)
ワールドカップⅢ	スイス・ルツェルン	7月5日(水)～7月11日(火)
7・8月合宿	岩手県・田瀬湖	7月25日(火)～8月24日(木)
世界選手権	セルビア・ベオグラード	8月26日(土)～9月12日(火)
9月合宿	埼玉県・戸田	8月31日(木)～9月15日(金)
アジア競技大会	中国・杭州	9月15日(金)～9月26日(火)
10・11月合宿	埼玉県・戸田	10月30日(月)～11月2日(木)
11月合宿	埼玉県・戸田	11月13日(月)～11月27日(月)
12月合宿	埼玉県・戸田	12月4日(月)～12月22日(金)
1月合宿	埼玉県・戸田	1月8日(月)～1月26日(金)
2月合宿	埼玉県・戸田	2月6日(火)～2月28日(水)
3月合宿①	埼玉県・戸田	2月28日(水)～3月14日(木)
3月合宿②	埼玉県・戸田	3月18日(月)～3月27日(水)

#### 【U23・FISU 世界大学競技夏季大会 (WUG)】

事業名	実施場所	期 間
U23 世界選手権	ブルガリア・プロヴディア	7月19日(水)～23日(日)
WUG	中国・成都	7月28日(金)～8月8日(火)

## (2) タレント発掘、及び競技者育成に関する事業

### ①基本方針

- 1) 海外育成拠点モデル事業
  - ・ポテンシャルアスリート (MPA) の育成に向け、有望なタレント育成選手の海外レース・合宿への派遣を積極的に行い、経験値向上を図った。
- 2) 国内育成モデル事業
  - ・タレント育成選手の国内合宿をおこない幅広い強化を図った。
- 3) 発掘育成拠点化事業
  - ・ローイング選手の発掘・育成に向け国内拠点の整備と普遍的なシステム構築に向け全国各地における拠点化の整備を行った。
- 4) 発掘モデル再構築事業
  - ・アスリート育成パスウェイに沿ってトライアウト1次選考・2次選考を実施した。
- 5) JOCエリートアカデミー事業の継続
  - ・アスリート育成パスウェイの重要な事業の一つとして活用し、修了生のフォローも継続して行った。

### ②具体的活動

#### 1) タレント発掘海外遠征

実施月	事業名	遠征地	対象選手
5月	欧州遠征	ドイツ/フランス	MPA・PA
6月	フランス選手権	フランス エギュベレット他	U21
6月	Holland Becker	オランダ アムステルダム	WUG・U23
8月	U19世界選手権	フランス・パリ	U19
1～2月	海外合宿	オーストラリア シドニー	MPA

#### 2) MPA (WUG・U23・U21) 強化育成合宿

実施月	実施事業	実施場所	対象選手
4月	MPA育成合宿	福井県・久々子湖	WUG・U23
6月	MPA育成合宿	福井県・久々子湖	WUG・U23
7月	MPA育成合宿	福井県・久々子湖 埼玉県・戸田	U23 WUG
12月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	U23
1月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	U23
2月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	U23
3月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	U23

3) JOCエリートアカデミー (EA) 事業

実施月	事業名	遠征地	対象選手
6月	フランス選手権	フランス エギュベレット他	EA

4) 有望選手発掘事業

実施月	事業名	遠征地	対象選手
12月	有望選手発掘育成合宿	長崎県・本明川	有望選手候補
1月	有望選手発掘育成合宿	長崎県・本明川	有望選手候補
2月	有望選手発掘育成事業	埼玉県・戸田	有望選手候補

5) タレント育成合宿

実施月	実施事業	開催地	対象選手
4月	タレント育成合宿	埼玉県・戸田	タレント
5月	タレント育成合宿	福井県・久々子湖	タレント
6月	タレント育成合宿	福井県・久々子湖	タレント

(3) 医科学に関する事業

新型コロナウイルス感染症の蔓延継続状況を踏まえ、より安定的な医療従事者の確保及び協力関係を確保し、円滑な大会運営医療業務、強化合宿、海外遠征および日常トレーニングに継続して貢献した。また新設したトレーナー部会の活動をより積極的に行った。

①メディカルサポートに関する事業

- ・本会の主な主催大会（全日本ローイング選手権、全日本社会人ローイング選手権、全日本大学ローイング選手権、全日本新人ローイング選手権）に医師ならびに看護師を派遣し、救急医事業務を行った。
- ・国内強化合宿、海外強化合宿および海外大会へ、医師ならびにトレーナーが帯同し選手のコンディショニング維持、改善および指導を行った。
- ・特にトレーナー部会においては、コンディショニングに関する知識を普及するために指導者と選手を対象に随時講習会を開催し、またホームページを利用した広報活動を行った。

②コロナ禍における活動

- ・大会開催に際し新型コロナウイルス感染症の状況に応じた対策計画をタイムリーに立案し、5類感染症移行を踏まえた対応を行った。
- ・大会前後および開催期間中における対応体制を取るとともに大会関係者に対する感染症指導ならびに管理業務を行った。

③競技用具の審査と検定に関する事業

- ・本会の規格艇登録規定に基づき、規格艇の審査および原簿登録に係わる業務を行った。
- ・2023年特別国民体育大会、第71回全日本高等学校選手権、第35回全国高等学校選抜大会において競漕艇の計測業務を行った。

(4) 指導者育成に関する事業

日本スポーツ協会と共に、ライフステージに応じた多様なスポーツ活動を推進することのできる公認スポーツ指導者を増やし、その質を高め、活躍の機会を広げることで誰もがスポ



ーツに親しむことのできる社会の実現に向けて以下を実施した。

①公認スポーツ指導者養成事業

公認資格指導者の人数増と質の向上を目指し、日本スポーツ協会助成事業による公認スタートコーチ、コーチ1および同3養成講習会について以下の日程で講習会を開催した。

また、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、オンラインによる講習会も実施した。

講習会名	開催日程	開催場所
公認コーチ3養成講習会	前期座学：8月11日～13日 後期座学：11月3日～5日 実技：11月25日～11月26日	座学：オンライン 実技：岐阜県/川辺漕艇場
公認コーチ1養成講習会	前期座学：8月5日～6日 後期座学：8月19日～20日 実技：11月18日～19日	座学：オンライン 実技：鳥取県/錦海ボートコース
公認スタートコーチ	5月6日（土） 10月8日（日）	静岡県浜松市 佐鳴湖漕艇場 福岡県北九州市 福岡県立東筑高校
資格更新義務研修 および コーチカンファレンス	希望なしのため未実施	都道府県ボート協会主催研修
	西地区 <沖縄> 11月18日（土）19日（日） 中地区 <名古屋> 11月25日（土）、26日（日） 東地区 <小見川> 12月2日（土）3日（日）	高体連主催研修

②コーチミーティングおよびコーチカンファレンス

指導者の質を高め活躍の機会を増やすため各委員会と連携し、コーチミーティングおよびコーチカンファレンスを実施した。

(5) アスリートに関する事業

アスリートの視点に立った提言するため以下事業を実施した。

①トップアスリートの意見を集約し協会諸事業に反映

- ・各委員会より適宜諮問される諸事項についてアスリートの意見を集約し、アスリートファーストならびにアスリートの環境改善につながる提言を積極的に行った。
- ・強化合宿等の強化活動に関するアンケートを集約し、環境改善につながる提言を行った。

②本会主催諸事業に協力しローイング競技の普及と発展に貢献

- ・ローイング競技ならびにアスリートの地位向上のため、パリ2024に向けた広報活動に積極的に参画した。

③次世代日本代表コーチ育成活動

- ・ナショナルコーチ体験プログラム参加者のスキルアップを目的とした育成プログラムを定期的に実施し、ナショナルチームに人材を送り込める体制の確立に向け活動した。

④トップアスリートのセカンドライフの支援

- ・トップアスリートが引退後も継続的にローイング競技や協会の活動に携われるようサポートを行った。

3. 普及本部関係事業

(1) 普及に関する事業

①総合型地域スポーツクラブ（SC）の設置および既存クラブ活性化の支援

- ・各都道府県ボート協会及び全国ボート場所在市町村協議会と連動し、全国主要水域のローイング普及環境の整備の一助とした。
- ・海の森水上競技場のレガシー活用の一環として東京都ローイング協会や日本カヌー連盟と共同で設立された総合型地域スポーツクラブ（SC）の運営および諸活動を支援した。

#### ②ジュニア層のローイング人口増および活動支援

- ・中学生および高校生のローイング競技振興を図るため、全国中学校ボート連盟および全国高等学校体育連盟ボート専門部の活動に対し支援を継続して行った。
- ・特に中学生のローイング人口拡大に向けたアプローチを重点的に実施した。

#### ③TOKYO2020開催記念レガッタの開催

- ・普及の目的で、海の森水上競技場で10月に開催した。

#### ④全国ボート場所在市町村協議会との協力関係推進

- ・協議会主催会議ならびに行事に積極的に参加し、協議会との関係強化を図った。

#### ⑤オリンピックの会に関する活動

- ・JSC助成事業として、ローイング競技普及を目的に「オリンピックとエルゴファイト」を海の森水上競技場他で開催した。

### (2) 広報に関する事業

全国的なローイング機会拡大とローイング人口の拡大に向け、広範に適時適切な情報発信を行った。

#### ①より魅力的な協会広報誌「ROWING」の発行

- ・今年度も、本会機関紙「ROWING」を6回発行した。
- ・あわせて、内容の刷新と編集経費の見直しを図った。

#### ②本会ホームページの改善とSNSの活用

- ・タイムリーな報告と強化関連を中心に掲載情報量のアップを図った。
- ・Facebookの活用に加え、その他SNSメディアの活用を検討、実施した。

#### ③報道機関、マスコミへの対応と協力

- ・普及およびスポンサー獲得のためのメディア露出を目的とした、情報配信をより積極的に行った。
- ・東京運動記者クラブはじめ各報道機関ならびに出版業界との関係を密にし、協会体制およびパラローイング、コースタルローイング等のタイムリーな情報発信に努め、報道を通じて本会の活動の広報に取り組んだ。

#### ④情報源としての全国的サポートネットワークの作成

- ・ブロックリポーター制度を復活した。

### (3) 安全環境に関する事業

ローイングの安全と環境保全に対する意識付けを行うため以下の事業を実施した。

#### ①セーフティアドバイザー（SA）制度の活性化と研修の実施

- ・全国のSAに対するオンライン会議の活用によるレベルの均質化を図った
- ・研修会の実施

事業名	開催日程	開催場所
セーフティアドバイザー研修	2月	オンライン開催

②ローイング水域の安全確保および環境整備に向けた活動

- ・ 9月に海の森水上競技場で開催されたアクアフェス2023において、WWFジャパンの環境保全に係る展示実施を支援した。
- ・ 9月に戸田ポートコースにて開催された全日本大学ローイング選手権において、会場から戸田公園駅までの清掃活動を、選手、観客の協力を得つつ実施した。
- ・ 11月に墨田区中川にて開催された初心者体験会の場において安全講習会を実施した。

③全日本ローイング選手権大会において水上レスキュー体制業務の支援をいただいている日本ライフセービング協会とパートナーシップ協定を締結した（7月）。

(4) コースタルローイングに関する事業

国内におけるコースタルローイングの基盤作りを継続しながら、2028ロサンゼルスオリンピックを見据えた、選手選考およびJOC派遣大会への選手派遣事業に着手した。

①水域および拠点の整備と開拓

- ・ 第1回クラウドファンディングによりクオード艇2艇を建造し、関東地区に配備した。
- ・ 東京都港区お台場で体験会および主催大会の開催により普及を図った。
- ・ 国内における普及拠点の確立を図った。～関東・中京・四国・九州地区。

②安全対策

- ・ 危険性を伴う海のスポーツとして水難事故ゼロを目指しコースタル「安全マニュアル」を策定した。
- ・ GPSキットを導入した。

③代表チームの評価・認定・派遣

実施月	大会名	開催地	対象種目
4月	WRBSF評価エルゴ	オンライン提出	全種目 (Jr. はエルゴで決定)
4月	WRCC評価エルゴ	オンライン提出	全種目 (エントリーNo. 決定)
4月	ARBSF (AWBG予選)	タイ・パタヤ	CW1x, CMix2x
6月	WRBSF評価レース	愛媛県今治市	CW1x, CM1x
7月	WRBSF評価レース	神奈川県葉山町	CMix2x, CMix4x+
8月	AWBG (開催中止)	インドネシア・バリ	CW1x
9月	WRBSF、WRCC	イタリア・バルレッタ	代表認定クルー

④自主財源の確保

- ・ コースタルローイング事業基盤の確立のために、第2回クラウドファンディングを実施した。

#### 4. パラローイング本部関係事業

##### (1) 基本方針

- ・パラローイングの国内における普及拡大と、パラローイング事業基盤を構築。
- ・2024年パリパラリンピック出場権の獲得

##### (2) 基本計画

- ・国際競争力を強化し2024年パリパラリンピックへの複数種目出場と入賞を目指す。
- ・競技拠点について現在の相模湖漕艇場以外の拠点づくりを推進し競技の普及を図る。
- ・J-STAR等による選手発掘では、4名が専門測定に合格した。
- ・コーチ、スタッフ計4名の増員により、サポートを拡充した。

##### (3) 具体的活動

###### ①国内合宿

実施月	事業名	開催地	対象選手
4月	4月強化合宿	海の森水上競技場	強化指定/育成選手
5月	5月強化合宿	海の森水上競技場	強化指定/育成選手
6月	6月強化合宿	海の森水上競技場	強化指定/育成選手
7月	7月強化合宿	海の森水上競技場	強化指定/育成選手
8月	8月強化合宿	岐阜県・川辺漕艇場	強化指定/育成選手
10月	10月強化合宿	海の森水上競技場	強化指定/育成選手
11月	11月強化合宿	神奈川県・相模湖	強化指定/育成選手
12月	12月強化合宿	東京都・NTC	強化指定/育成選手
1月	1月強化合宿	海の森水上競技場	強化指定/育成選手
2月	2月強化合宿第1回	神奈川県・相模湖	強化指定/育成選手
2月	2月強化合宿第2回	鹿児島県・伊佐市	強化指定/育成選手
3月	3月強化合宿	相模湖・戸田漕艇場	強化指定/育成選手

###### ②国際大会派遣

以下の国際大会に選手団を派遣し、アジアパラ競技大会では銅メダルを獲得した。

派遣期間	大会名	開催地
9月	世界選手権	セルビア・ベオグラード
10月	アジアパラ競技大会	中国・杭州

###### ③乗艇体験会の実施

- ・普及活動として、神奈川県相模湖等において乗艇体験会を12回実施した。

#### 5. 管理本部関係事業及び独立委員会事業

##### (1) 国際関係事業

①国際大会への審判派遣…今年度は以下の国際大会に審判員を派遣した。

[World Rowing/FISU 大会]

大会名	開催地	期間	派遣審判	所属
世界インドアローイング選手権	カナダ トロント	2/25~26	千田隆夫 (バーチャル参加)	岐阜
世界 U19 ローイング選手権	フランス パリ	8/2~6	山崎佳奈子	東京
FISU 大学競技夏季大会 (ローイング)	中国 成都	8/4~6	千田隆夫 成田泰久	岐阜 東京

[ARF 大会]

大会名	開催地	期間	派遣審判	所属
アジア U19・U23 ローイング選手権	タイ パタヤ	12/14~18	隈元幸治 成田泰久 山崎佳奈子	神奈川 東京 東京

[OCA 大会]

大会名	開催地	期間	派遣審判	所属
アジア競技大会 (ローイング)	中国 杭州	9/20~25	千田隆夫 松田雅彦	岐阜 神奈川
アジアパラ競技大会 (ローイング)	中国 杭州	10/22~28	千田隆夫 塚田秀樹	岐阜 京都

②World Rowing および ARF 総会への代表者派遣

- ・各連盟の事業方針、各国動向等最新情報を把握するため下記総会へ代表者を派遣した。

会議名	会議日程	開催国・会場地
World Rowing 通常総会	9/11	セルビア・ベオグラード (バーチャル参加)
ARF 総会	9/23	中国・杭州

③JOC 国際人養成アカデミーへの受講者派遣

- ・将来国際ステージで活躍できる人材育成を目的に、同アカデミーの受講者を募った。

④国際大会開催支援

- ・2026年愛知名古屋アジア競技大会の開催に向け、公益財団法人愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会組織委員会および地元中部ボート連盟、愛知県ボート協会と連動し、開催に関する支援を実施した。

(2) 財政基盤強化に関する事業

財政基盤の再建に向けて資金配分フレームワークを導入した。あわせて予実管理の厳正化に向けた予算管理規程を制定し、2024年度予算策定から施行開始する。

① 助成金獲得の取組み

- ・日本オリンピック委員会、日本スポーツ振興センター、戸田ボートレース事業者ならびにその他団体に対し本会の諸事業の目的および重要性について理解を求め、継続的かつ安定的な支援をお願いした。

② 事業収入の見直し

- ・各種事業収入の単価を昨年度改定したが、その他の収入に関しても適宜見直しを検討して財政基盤の強化につなげた。
- ・戸田国立艇庫底地の定期借地権設定契約を独立行政法人日本スポーツ振興センターとの間で締結し増収を図った。

③ マーケティング戦略の構築

- ・本会内のマーケティング活動を横断的に取りまとめるため、総務委員会の中に「マーケティング部会」を設け積極的な活動を展開し、協賛金の増額を実現した。
- ・参加2年目となったJOC/NFジョイントマーケティングにおいて、更なるスポンサーの獲得に努め、協賛金収入と協賛企業数を着実に増加させた。
- ・組織体制を增強する中で、本会の事業価値とマーケティング戦略の再構築を行い、基盤強化に貢献した。

④ 情報管理システムの刷新

- ・「みる人」「する人」「支える人」を一元管理しローイングの価値向上を通じて経営基盤の強化を図るため、スポーツ庁の助成を得て2025年度本格運用開始を目指した新たな情報プラットフォームの開発を着実に進めた。

⑤ 募金、義援金等の取組み

- ・パリ2024に向けて広く強化募金を実施し、6,705千円の協力を得た。
- ・協会所在地である東京都新宿区のふるさと納税制度を活用し、700千円の寄附を得た。
- ・水害でボートコース設備が被災した静岡県ローイング協会を支援するため、広く義援金を募り、1,000千円を寄贈した。
- ・コースタルローイングの事業基盤確立のためクラウドファンディングを実施し、3,780千円の支援を得た。

(3) ガバナンス強化に関する事業

加盟上部団体（JSP0、JOC、JPSA）による本会のガバナンスコードの適合性審査では改善事項の該当はなかったが、より一層の体制強化を継続した。

① 公益法人に関する業務の推進

- ・公益法人として本会運営を行うために、必要な各種規程類の更なる整備をするとともに、その他の関連業務を継続して実施した。

② コンプライアンスおよびインテグリティの徹底

- ・強化の現場ならびに本会役職員に対するコンプライアンスおよびインテグリティ教育に関し、各種研修会や講習会への参加による啓蒙活動を継続した。

(4) アンチ・ドーピングに関する事業

日本アンチ・ドーピング機構（JADA）が指定して行う国内大会におけるドーピング検査を受け入れるとともに、強化指定選手中心から対象を更に広げ、アンチ・ドーピングに関する教育および啓蒙の強化を図った。

① ドーピング検査受入

- ・ JADAが指定して行うドーピング検査を受け入れ、合わせてサポート業務を行った。

② ドーピング防止啓発活動

- ・ 研修講師向け「クリーンスポーツエデュケーター資格」取得のための講習会を今年度より新たに実施した。
- ・ 強化指定選手（パラローイングを含む）を対象としたWEBによるアンチ・ドーピング研修会を実施した。
- ・ U19およびU23代表選手へのアンチ・ドーピング研修会を実施した。
- ・ 各地域大会（朝日レガッタや国体地区予選など）においてアンチ・ドーピング研修会を実施した。
- ・ アウトリーチ活動を全日本ローイング選手権、全日本新人ローイング選手権、朝日レガッタ開催時に実施した。

(5) 企画戦略に関する事業

- ・ 「新ビジョン」の推進・実現に向けて本会の現状分析と課題を整理し、各委員会とも連携しながら中期事業計画の横断的進捗管理を図った。  
また、併行して中期事業計画の精査および軌道修正など本会の方向性に関し提案した。
- ・ スポーツ・インテグリティ（誠実性・健全性・高潔性）推進に向けて、各委員会との情報交換を密に行い重要性の周知を徹底した。
- ・ 2020東京オリンピック・パラリンピックのレガシー全般の推進に関して、海の森水上競技場におけるレガシー推進計画の企画・立案および関係先との調整を図った。
- ・ World RowingからJean-Christophe Rolland会長はじめ3名を招聘し「JARAフォーラム2024」を開催した。

以上

令和5年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和6年3月31日

公益社団法人 日本ローイング協会